

見学のみなさんへ（お願い）

ここは中世の山城の跡で、史跡公園となっています。下記の事項をご覧いただき、見学して下さい。

- 1 石を動かしたり、地面を掘ったりしないでください。
- 2 木の枝を折ったり、植物を採取しないでください。
- 3 石垣がたくさんあります。危険個所には立ち入らないようにし、安全にはくれぐれも気を付けてください。
- 4 ゴミは必ず持ち帰りましょう。
- 5 タバコや火気の使用はご遠慮ください。
- 6 トイレの設備はありません。美術館のトイレをご使用ください。
- 7 飲料水は、城跡入口付近の水道をご使用ください。

みんなで気持ち良く公園を使うためにご協力をお願いします。

富士見城（大室城）について

立地

高峰山の広大な南傾斜面に独立峰のようにできた丘陵である飯綱山いいつなまの山頂に立地し、南側の諸集落もろからは145mほど急斜面を登るのに対して、北側の後平集落うしろだいらからは30mほどのところす。

眺めが良く、はれていれば富士山を遠望できることから、富士見城の名がついたものと考えられます。

城の歴史・特徴

この頃の時代は、ふだん生活する場（根小屋・居館と呼ばれます）と戦闘の際使われる城・砦とが別々になっている例が多くあり、この富士見城の場合も人がここに常時生活していたものではありません。

だれが、いつ、この城を造ったのか明確ではありませんが、その初期は、西の滋野氏系の勢力と隣接する地域であることから、大井氏系の勢力と緊張状態が生まれた頃、境目の城としての砦が造られたことが考えられます。

続いて、甲州（山梨県）の武田氏が佐久地方へ進出した頃（天文年間＝1532年～1554年）には、佐久地方統括の拠点、小諸鍋蓋城（小諸城の前身）の支城として整備され、多少の石垣が積まれたとも考えられます。

武田氏滅亡後、（天昇10年＝1582年）は、徳川・上杉・北条という諸氏が信州を取り合う中で、西に隣接する小県地方に根を張る真田氏と徳川氏の争うところとなり、徳川家康の家臣である柴田康忠が一時在陣したと言われています。

これまでの研究からすると、少なくとも、戦国時代（今から500年くらい前）の終わり頃にはできていたものと思われます。

富士見城は、飯綱山全体が岩石で至る所に石があることから、その石を利用してほとんどの郭（曲輪）が石積みによって区画されています。この石材は、飯綱山溶岩（灰色細流1mm以下の輝石類の散点する普通輝石紫蘇輝石安山岩）と呼ばれ、市内では飯綱山だけに分布しています。

富士見城の石垣は、きわめて原初的な石垣で、県内でもこれだけ石垣が多用されている城跡は数少ないと言われています。

富士見城のおもな施設

- 旗塚か？** ^{はたづか} 旗塚と思われる土の高まりが数か所あります。
- 堀切 1** ^{ほりきり} 最初の堀切（土を掘って防^{ぼうぎょ}御施設にしたもの）。かすかに堀^{ほりがた}形が残っています。
- 五の郭** ^ご ^{くるわ} 城の東限で木戸^{きど}（城の出入り口）などが設けられていた場所と思われます。
- 堀切 2** ^{ほりきり} 現況でははっきりしませんが、残っている部分の観察からここにも堀切^{ほりきり}があったと考えられます。
- 四の郭** ^{くるわ} ^{てくるわ} ^{しゅかく} 出郭（主郭から離れて設けられた郭^{くるわ}）とも言うべき郭。東西に土^{どるい}墨（土を盛り上げて防^{ぼうぎょ}御施設にしたもの）があります。
- 堀切 3** ^{ほりきり} 本城で最も大きな堀切^{ほりきり}。古くに土取り場となり、形は少し変形しています。現時、ここには木橋がかけられています。この木橋を渡ると主^{しゅかく}郭です。
- 主郭** ^{しゅかく} 山の最高所にあり、三角点のある一段高い郭^{くるわ}とその西に続く長方形の郭^{くるわ}が本城の中心です。また、西側の斜面には、防^{ぼうぎょ}御のために多くの小さな石垣が設けられています。
- 堀切 4** ^{ほりきり} 浅い堀切。堀切^{ほりきり} 3とともに主^{しゅかく}郭を守るためのものです。
- 二の郭** ^{くるわ} 東側にある高さ2 mほどの土^{どるい}墨と西側の南側半分には高さ1 m、外側の高さ3 mの石^{せき}墨^いで防^{ぼうぎょ}御されています。
- 三の郭** ^{くるわ} 最も広い郭^{くるわ}。この半円形の郭^{くるわ}を囲んで、高さ3 m近い石垣が取り巻いていてみごとです。

[参考] ^{くるわ} 郭 は近世の城では丸^{まる}と呼ばれています。主^{しゅかく}郭は本丸^{ほんまる}にあたります。

小諸市 富士見城跡

